



# 歴史

## 古代における鉄と大陸との関係

島根県 島根大学教育学部附属義務教育学校 後期課程 岡田昭彦

### 1 はじめに

社会とはなんであろうか。人間社会は、狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) と発展し、そして今、それらに続く新たな社会である Society 5.0<sup>\*1</sup> の実現をめざしている。どの社会にも人々をつなぐ「媒体」が存在し、その媒体を介して社会は形成され発展していく。今回、上記の考え方にもとづき、古代の社会が築かれていくようすを理解させる授業案を構想した。

### 2 単元の構想

本単元は、『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）p.22～27「東アジアの中の倭（日本）」

である。まず、本単元をつらぬく問いとして、『社会』とは何かを設定した。古代の日本には製鉄技術がなかったため、鉄の入手ルートであった大陸が密接に関係してくる。そこで、本授業案は、媒体の一つとして鉄の存在にスポットをあて、倭（日本）あるいはヤマト王権と大陸との関係から当時の社会が築かれていくようすを理解させることによって、「社会とは、人々がなんらかの媒体を介してつながる生命維持活動の場である」という概念的な知識の獲得をめざしたいと考える。

さらに、問いを解決する能力を育成するよう、また、「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」<sup>\*2</sup>である歴史的な見方・考え方をはたからせるよう意識して学習活動を構想した。

表1 単元の構成

	時限	学習目標	「問い」と学習活動	評価規準
単元をつらぬく問い「社会」とは何か	第1時	縄文から弥生への変化 縄文時代から弥生時代にかけて、人々の生活の変化を理解する。	「縄文時代から弥生時代へは、何が社会に変化をもたらしたのか？」という問いを解決しながら、人々の生活を考察し、説明する。	「農耕が媒体となって、狩猟社会から農耕社会に変化した。大陸から伝わった青銅器が祭祀に使われた」という知識が身についたか。
	第2時	ムラがまとまりクニへ 日本列島の各地にあった国々がまとまるようすを理解する。	「邪馬台国はどのようにして各地のクニをまとめたのか」という問いを解決しながら、大陸の役割を考察し、説明する。	「農耕やいくさが媒体となって有力者が生まれ、ムラがまとまってクニとなった」という知識が身についたか。
	第3時	鉄からみえるヤマト王権〈本時〉 製鉄技術と大陸との関係を理解する。	「なぜ倭は高句麗や新羅と戦ったのか」という問いを解決しながら、ヤマト王権の拡大を考察し、説明する。	「ヤマト王権はいくさにより鉄の供給源を確保し、日本各地の豪族を従えて拡大した」という知識が身についたか。

### 3 本時の展開

第1時および第2時で、人々をつなげる「媒体」の存在が社会の形成をもたらすという視点を生徒に意識させたい(表1参照), 本時「鉄からみえるヤマト王権」の学習に入る。

まず、前時のふりかえりとして、ムラがクニとなっていく要因を発表させる。そして、『アドバンス中学歴史資料』(以下、資料集) p.17「⑩邪馬台国の想像復元模型」(図1)を見ると、防御柵があり、いくさがあったことがわかる。



図1 『アドバンス中学歴史資料』 p.17「⑩邪馬台国の想像復元模型」(大阪府立弥生文化博物館所蔵)

次に、資料集p.18「高句麗の広開土王(好太王)碑文」(図2)の内容と、教科書p.26に「ヤマト王権は、(中略)百済に協力して高句麗や新羅と戦いました」とあることから、「倭国内でもいくさのある時代に、わざわざ高句麗や新羅と戦う必要はあったのだろうか」という疑問が生じる。ここに鉄との深いかわりがある。

#### 高句麗の広開土王(好太王)碑文

百済と新羅は、もともと高句麗に従い、ずっとみつぎものを持ってきていた。ところが、391年に倭が海をわたってきて征服してしまった。そこで、高句麗の好太王は、396年に水軍をひきいて百済を攻めた。……百済王は男女の奴隷千人と布千匹を献上し、今後長く家来として従うことを誓った。……399年、百済はその誓いを破って倭と手を結んだので、好太王は南に下って平壤付近に軍を進めた。

図2 『アドバンス中学歴史資料』 p.18「高句麗の広開土王(好太王)碑文」

世界の先がけとなる金属器は青銅器である。銅は鉄に比べ還元しやすく、加工しやすかった。しかし、日本においては弥生時代に青銅器と鉄器がほぼ同時に伝来したため、青銅器はおもに祭器として、よりかたくて実用的な鉄器は、農具や武具など生活に直結する道具として重宝された。当時の日本列島には製鉄技術がなかったため、朝鮮半島から輸入するしか鉄の調達方法がなかった。その朝鮮半島からの調達ルートを掌握していたのがヤマト王権であり、ヤマト王権は、豪族たちにこの鉄を与えることで支配を拡大していった。ヤマト王権は、鉄を輸入するルートを守るために高句麗や新羅と戦ったと考えられるのである。

こうしたことを、「なぜ倭は高句麗や新羅と戦ったのか」という問いを立て、資料を読み取ることで解き明かしていく(表2参照)。

大陸の国々はめまぐるしく変わるため、教科書p.27「⑧5世紀の東アジア」(図3)の地図を活用し、倭と大陸との関係を理解させたい。

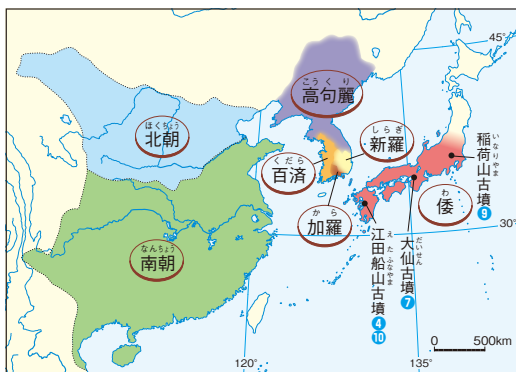


図3 『社会科 中学生の歴史』p.27「⑧5世紀の東アジア」

最後に、本時の内容を中心にワークシートでのふりかえりを行う。筆者の授業では、日ごろから、ツールミンモデルを使用した「自分の主張を図式化するワークシート」(図4)を活用している。資料から読み取った事実根拠をあげて、自分の主張に理由づけをするもので、論理的思考力を養うことを目的としている。

課題は、「高句麗や新羅と戦って、倭に利益はあったか」とし、「利益があった」という主張に合わせて事実根拠と理由づけを記入させる。記入した内容は、生徒によって質的量的に違いがあると予想されるため、みずからあげた事実根拠と理由づけを発表してもらい、授業者が助言する時間を設けたい。他者の意見を参考に加筆させることで、多くの生徒が、評価規準に対しておおむね満足できる状態となるだろう。

## 4 おわりに

本単元は歴史的分野の学習を始めてまもない時期に実践するため、「自分の主張を図式化するワークシート」の「主張」の部分を固定した。固定することによって課題に取り組みやすくとともに、発表者の意見をクラス全員が参考にすることができるようにした。しかしいずれは、資料から読み取った事実根拠をもとに、み

ずからの主張を組み立てられるようにしたい。

なお、ワークシートの「単元の終わりに獲得した知識」は穴埋め形式にすることも考えられる。「社会とは、人々がなんらかの媒体を介してつながる生命維持活動の場である」というこの概念的知識は、時代を大観したり、時代の転換点を理解したりすることに役だち、今後の歴史的分野の授業すべてにおいて活用できる概念であるため、着実に獲得させたい。

※1…サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと（内閣府ホームページより。  
[https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/index.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)）。

※2…『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』p.83

帝国書院の指導者専用サイトに、  
本授業研究のワークシートを掲載しています。  
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)

表2 本時の学習

学習活動 (●) と予想される反応 (・)	支援 (○) と評価
<p>〈導入 前時のふりかえり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ムラからクニにまとまっていたのには、どのような要因があったのだろうか。発表しよう。</li> <li>・卑弥呼のような強力なリーダーが存在した。</li> <li>・稲作が媒体となり、ムラどうしが争い、勝ったムラが負けたムラを吸収してクニになった。</li> <li>・青銅器をもっているクニがもっていないムラを従えた。</li> <li>・三角縁神獣鏡<small>さんかくぶちしんじゆうきやう</small>を贈られるなど、中国のあとおしがあるムラがクニになった。</li> </ul> <p>〈展開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●なぜ倭は高句麗や新羅と戦ったのか。</li> <li>・朝鮮半島からの鉄の調達ルートを守るため。</li> </ul> <p>〈追究〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高句麗や新羅と戦って、倭に利益はあったか。</li> <li>・あった。ヤマト王権は豪族たちに朝鮮半島の鉄を与えるかわりに、みつぎものや兵士の動員などを義務づけて従えていった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中国から贈られた青銅鏡（資料集p.17「⑦出土した青銅鏡」）の保持や、王を中心としたクニの形などに着目して、ムラとクニの違いを読み取るようにうながし、中国の歴史書に書かれた日本について解説する（資料集p.16「紀元前後の日本」、p.17「3世紀ごろの日本」）。</li> <li>○図2・3を関連させ、倭と朝鮮半島との関係を考えさせる。</li> <li>○教科書p.26「②鉄の延べ板の出土地」または資料集p.18「①4～5世紀の東アジア」の凡例「鉄の延べ板のおもな出土地」に着目させる。</li> <li>○「自分の主張を図式化するワークシート」に記入させる。評価：「社会とは、人々がなんらかの媒体を介してつながる生命維持活動の場である」という概念的な知識（社会的な見方・考え方）を獲得できたか。</li> </ul>

## 自分の主張を図式化するワークシート（ふりかえり）

（ ）年（ ）組（ ）番 名前（ ）

事実根拠：資料から読み取った、主張の根拠となる事実

主張：資料を読み取った内容から導き出される結論

理由づけ：根拠となる事実を主張に結びつける理由

課題：高句麗や新羅と戦って、倭に利益はあったか。

### 〈事実根拠〉

- ①ヤマト王権は百済に協力して高句麗や新羅と戦った(教科書 p.26 本文)。
- ②百済は倭と手を結んだ(資料集 p.18「高句麗の広開土王(好太王)碑文」)。
- ③当時の日本には鉄をつくる技術はなく、鉄は延べ板のような形で朝鮮半島からもたらされた(教科書 p.26 本文)。
- ④百済からも鉄の延べ板が出土している(教科書 p.26「②鉄の延べ板の出土地」)。
- ⑤ヤマト王権は、豪族たちに朝鮮半島からの鉄や技術などを与えるかわりに、みつぎものや兵士の動員などを義務づけた(教科書 p.27 本文)。
- ⑥4～5世紀に前方後円墳が各地に広まったのは、各地の豪族がヤマト王権に従うようになり、大きな墓をつくるのが許されたから(教科書 p.27 本文)。
- ⑦戦乱の多い中国や朝鮮半島から渡来人がやってきて、須恵器や鉄器の製造、機織、漢字などの技術が伝わった(教科書 p.27 本文)。

### 〈主張〉

高句麗や新羅との戦いは、倭にとって利益があった。

### 〈理由づけ〉

- ・①と②の根拠から、倭は百済との関係が強化できたから。
- ・③と④の根拠から、ヤマト王権は、朝鮮半島から鉄を手に入れることができたから。
- ・⑤と⑥の根拠から、ヤマト王権は、鉄を利用して豪族に従え、勢力を拡大できたから。
- ・⑦の根拠から、日本に毎日の生活に役だつ多くの技術が伝わったから。

### 〈単元の終わりに獲得した知識〉

縄文時代から古墳時代の「社会」は、「狩猟」「いくさ」、そして大陸との関係から得た「農耕技術」、「青銅器」、「鉄(鉄器)」を媒体として、王と豪族、そして庶民がつながった、生きるための活動の場であった。

図4 自分の主張を図式化するワークシート ※赤字は生徒の記入例